

美術科教育学会 学会誌『美術教育学』 投稿論文作成の手引き

美術科教育学会 学会誌編集委員会

1. 人権及び研究倫理の遵守について

1-1. 人権の尊重及びプライバシーの保護

投稿論文の内容及び研究手続き全般において、研究・実践対象者や協力者の人権の尊重及びプライバシーの保護に十分配慮する。例えば、写真の使用にあたっては、被写体となった人からの投稿・公刊の許諾を得る。

1-2. 著作権・著作権等への配慮

図版等の掲載にあたっては、著作権・著作権等に配慮し、著作権者等による転載の許諾を得る。

1-3. 研究倫理の遵守

投稿原稿は、オリジナル原稿でなければならない。剽窃、捏造、二重投稿などに抵触してはならない。既に公刊されたものや他の学会誌等に投稿中のもの(審査中のもの、印刷中又は印刷予定のものを含む)を別の学会誌等に投稿することは二重投稿となる。

1-4. 生成AI等の利用

1-4-1. 生成AI (Artificial Intelligence) やAI支援ツール (以下生成AI等) は、文章作成の補助、校正、文言の改善等に用いることは許容されるが、独立した著者としては扱われない。生成AIそのものを著者として記載することはできない。

1-4-2. 投稿論文に含まれる全ての内容に関する最終的な責任は著者自身にあり、生成AI等の出力結果に誤りや偏りが含まれていた場合でも、著者はこれを十分検証し修正する義務を負う。

1-5. 配慮ならびに遵守事項に関する書類の提出

上記 1-1 から 1-4 の事項については、編集委員会が以下のような書類の提出を求める

ことがある。

1-5-1. 研究協力者(調査対象者, 被験者, 観察対象者等)の「同意書」

1-5-2. 投稿論文中に使用されている写真の権利者, 又は被写体となっている人(未成年者の場合はその保護者等)の「写真等使用許諾書」

1-5-3. 投稿論文中の図版, 図表等の引用についての, 著作権者等による「転載許諾書」

1-5-4. 投稿論文と関係のある, 同一投稿者による公刊又は公刊予定の論文等のコピー

1-5-5. 生成 AI 等の利用に関する情報や資料

2. 書式に関する一般的な原則

2-1. 言語

用いる言語は原則として日本語とする(韓国造形教育学会との提携論文の場合は英語も可)。その他の言語については, 編集委員会が個別に受付の可否を検討する。

2-2. 書式

投稿原稿の用紙は投稿原稿の用紙は B5 判(縦)横書きとし, 各頁の下段余白中央に頁番号を明記する。

本学会公式ウェブサイトから, 書式見本等をダウンロードして参照すること。

投稿原稿は厳密に組版通りの書式でなくてもよいが, 本文と図表のレイアウトが適切であり, 論文の総頁数と印刷の仕上がりをイメージできるとともに, 査読者が精読しやすいように配慮する。

2-3. 表題・概要頁

2-3-1. 和文表題・副題

副題は, 必要があれば表題の次の行に記入する。

2-3-2. 英文表題・副題

和文表題・副題から 1 行空きを取って記入する。必要があれば副題を表題の次の行に記入する。原則として接続詞・冠詞等以外の各語頭を大文字にする。副題を付ける場合は和文表題でよく用いられるような「—」は使わず, 主題の末尾に「:」を付ける。

例) Politics of Teaching Art: (主題)

A Critique and a Proposal (副題)

2-3-3. 和文氏名

姓と名の間スペースを入れる。和文氏名の頭(左)に「*」(上付きのアスタリスク)を付す。共同執筆の場合は、同様に、第二著者には「**」, 第三著者には「***」を付す(同頁下部の「著者データ」と対応する)。

2-3-4. 英文氏名

姓・名の順とし、姓はすべて大文字で表記する。

2-3-5. 和文概要(350 字以内)

概要の目的は、「何を」「どのような方法で」「どのように」明らかにしたのか、研究の対象・方法・結論を簡潔に示すこと。例えば「〇〇を△△で検討し、□□の結論を得た」というように、研究の対象・方法・結論(結果)を明記する。

2-3-6. 英文概要(150 語以内)

査読の結果、掲載が決定した後で提出するので、投稿時は空欄のまま提出する。

2-3-7. 和文キーワード(3-6 個)

キーワード間の区切りは「,」を使用する。

2-3-8. 英文キーワード(3-6 個)

キーワード間の区切りは「,」と半角スペースを合わせて使用する。

2-3-9. 著者データ

左段最下部に「和文氏名/和文所属先」「英文氏名/英文所属先」「連絡先」の順に記入し、和文氏名の頭(左)に「*」等を付す。職名は記さない。連絡先は原則として電子メールアドレスとするが、著者の判断で記載しなくてもよい。

2-4. 本文

2-4-1. 本文頁の文字数は 1 頁当たり 1,600 字(20 字×40 行×2 段)とする。

2-4-2. 本文の構成は、原則として「章」「節」とする。

2-4-3. 「章」は、半角アラビア数字+半角ピリオド+半角スペースに続いて章名を記す。

第 2 章以降は前に 1 行空きを取る。章名の次にも 1 行空きを取る。

例：1. 〇〇〇〇

2-4-4. 「節」は、半角()で囲んだアラビア数字+半角スペースに続いて、節名を記す。

節名の前後には空きを取らない。

例：(1) ○○○○

2-4-5. 必要に応じて、節の下位に「項」を設定できる。○で囲んだアラビア数字+半角スペースに続いて項名を記す。

項名の前後には空きを取らず、行替えもせず、項名のすぐ後に全角スペースを空けて、本文を記す。

例：①○○○○

2-5. 文字等

2-5-1. 句読点は「。」「,」を使用する。

2-5-2. 和文では、句読点や括弧等の記号を含め、原則として全角文字を用いる。

2-5-3. 括弧、カギ括弧、スラッシュ、ハイフンの類いは全角とする。

2-5-4. 欧文の文字及びアラビア数字は、原則として半角文字を用いる。

2-5-5. 2桁以上の算用数字は、半角文字を用いる(1桁の場合は全角)。西暦年号以外の4桁以上の数字は、3桁毎に「,」を付ける。

2-6. 人名表記

2-6-1. 投稿者自身の著書・論文について触れる場合は、「拙書」「拙稿」とせず、著者名を明記する。

2-6-2. 敬称は原則として使用しない。

2-6-3. 文中に同じ人物の名前が表示される場合は、原則として初出のみフルネームで表示し、2回目からは姓のみとする(複数の同姓の人名を表示する場合はこの限りではない)。

2-6-4. 外国人の人名表記は、原則として初出のみ()内に原綴りを記す。

2-7. 図表

2-7-1. 原則として、図表は本文中に貼り付け、段組の幅を基準とした統一感のあるレイアウトを心がける。図・表の左右には本文を割り付けない。

2-7-2. 学会誌はモノクロで印刷されるため、現物の図・表は黒一色で作成された鮮明な版下を提出する。ただし、査読用にはそのコピーを提出すればよい。

2-7-3. 本文及びキャプションには、原則として「図」あるいは「表」という表記を使い、「写真」「作品」及び「グラフ」等の表記は使わない。

2-7-4. キャプションの位置

2-7-4-1. 「図」：図の左端に合わせて左詰めし、図の下段に「図1」「図2」（出現順）と記し、タイトル等をその右に続けて記す。

2-7-4-2. 「表」：表の左端に合わせて左詰めし、表の上段に「表1」「表2」（出現順）と記し、タイトル等をその右に続けて記す。

2-8. 引用

2-8-1. 短文の引用(直接引用)

2-8-1-1. 引用箇所を「」で括り、地の文章の中で引用する。引用文中に「」が含まれる場合、その「」は『』に置き換える。

2-8-1-2. 引用文の末尾に句点があっても、地の文章がそのまま続く場合には、閉じた括弧の前の句点は不要である。

2-8-1-3. 引用文に関する註を適切な箇所につける。

2-8-2. 長文の引用(直接引用)

2-8-2-1. 引用文は、各行の左側を全角1文字分、字下げし、字のポイントを落として引用する。

2-8-2-2. 引用文は「」で括らず、引用文末尾の句点の後に()で文献情報(著者名・書名・論文名など)を記す。

2-8-2-3. 引用文に関する註を適切な箇所につける。

例)

山本は、大正7(1918)年12月に、医者である父の開業地であった長野県ちいさがた小かんがわ県郡神川村大屋(現在の¹⁾上田市)の神川小学校で、教員約20名を前にして「児童の絵画教育に就て」という次のような講演をした¹⁾。

私は児童の絵画教育を一変し度いと思ひます。臨本教育を廃して自由画の奨励に努めたいのです。私の此希望は、『学齡期前の児童の画はたいてい面白いが、それが学校へ通ふようになると皆悪くなつてしまふ』といふ現象が、専ら臨本教育に由来する事を直覚した事から来て居るのですが、理論としても、大人の作った一定のお手本に、児童の画的表現を導く事はいけない事です。(山本鼎「露西亜の外套」)

これがきっかけとなり、翌大正 8 (1919) 年 4 月に神川小学校で、第 1 回児童自由画展覧会が開催された。

2-8-3. 直接引用の共通形式

2-8-3-1. 文献から直接引用する場合には、原文に忠実に引用し、著者名・書名(論文名)・該当頁を、註によって明記する。

2-8-3-2. 引用文中に誤字・脱字がある場合は、原文のまま転記し、当該語句の上に(マ) とルビを付ける。

2-8-3-3. 引用文に強調の傍点がついている場合は(傍点原著者)と括弧書きし、原文にない傍点を引用者が打つ場合(傍点引用者)と区別する。

2-8-3-4. 原文に改行が多く、引用に際して行を詰めたい場合は、改行個所に「/」をはさんだ上で続けて表記する。

2-8-4. 参照(間接引用, 要約引用)

文献をそのまま引用するのではなく、要約したり著者の言葉で言い換えたりすることであり、この場合も参照した文献情報を註に明記する。

2-9. 註

2-9-1. 本文中の註は通し番号とし、¹⁾²⁾³⁾ のように半角アラビア数字で表記し、右肩上付きとする。註と句読点が隣接する場合には、句読点の前に註番号を付ける(例 1)。また、カギ括弧等が付いた語句に対して註を付ける場合は、カッコ類を閉じた後に註番号を付ける(例 2)。

例 1).....は○○○であり ¹⁾, ○○○である ²⁾。

例 2)この「○○○○」³⁾とは

2-9-2. 註記と引用文献は、全て論文末尾に「註」で示す。註は本文の後に 1 行空きを取り、24 字×53 行の 2 段組で記す。

2-9-3. 註の表記は、原則として以下とする。下記に指定のない事項は投稿者に委ねるが、表記を一貫させること。

2-9-3-1. 和文雑誌の場合

著者名, 発行年, 「論文名」, 『雑誌名』, 雑誌の巻(号)等, 発行所 (学会名), 参照・引用頁

例) 江尾海太, 2020, 「美術」, 『大阪美術教育大学 教育学部紀要<社会科学>』, 50, 大阪美術教育大学教育学部, p.12

江尾海太, 2020, 「美術」, 『美術教育学』, 42, 美術科教育学会, p.12

江尾海子, 2020, 「美術」, 『美術教育学研究』, 52, 大学美術教育学会, p.12

江尾海子, 2020, 「美術」, 『美術教育』, 102, 日本美術教育学会, p.12

江尾海子, 2002, 「美術と心理」, 『教育心理学研究』, 50(3), 日本教育心理学会, pp.389-399

2-9-3-2. 和文単著の場合

著者名, 発行年, 『書名』, 出版社名, 参照・引用頁

例) 三田寛二, 2020, 『図画工作』, 美術教育社, pp.26-31

2-9-3-3. 和文編著の場合

著者名, 発行年, 「論文名・章など」, 編著者名, 『書名』, 出版社名, 参照・引用頁

例) 三田寛子, 2020, 「図画について」, 三田寛二(編), 『図画工作』, 美術教育社, pp.40-41

2-9-3-4. 翻訳書の場合

原著者姓(姓名原語表記), 訳者名, 発行年, 『書名』, 出版社名, 参照・引用頁

例) ローウェンフェルド (Viktor Lowenfeld), 竹内清, 堀ノ内敏, 武井勝雄訳, 1963, 『美術による人間形成 創造的発達と精神的成長』, 黎明書房, pp.28-29

2-9-3-5. 欧文論文の場合

Author, Year, “Article”, *Journal Title (Italic)*, Volume(Number), Page(s)

著者, 発行年, “論文名”, 雑誌名 (イタリック), 巻(号), 参照・引用頁

例) Hanan A. Alexander, 1986, “Elliot Eisner’s Aesthetic Theory of Evaluation”, *Education Theory*, 36(3), pp.259-270

2-9-3-6. 欧文単著の場合

Author, Year, *Book Title (Italic)*, Publisher, Page(s)

著者, 発行年, 書名 (イタリック), 出版者 (発行所), 参照引用頁

例) Elliot Eisner, 1994, *Cognition and Curriculum Reconsidered*, Teachers College Press, p.13

2-9-3-7. 欧文編著の場合

Author, Year, “Article” Editor, *Book Title (Italic)*, Publisher, Page(s)

著者, 発行年, “章など”, 編者, 書名 (イタリック), 出版者 (発行所), 参照引用頁

例) Howard Gardner, 1989, “Toward More Effective Arts Education,” in Howard Gardner & David Perkins (eds.), *Art, Mind and Education: Research from Project Zero*, University

2-9-3-8. 直後に重複出現する場合

同じ文献で通し番号が続いている場合は、既述の項目の重複部分を省略し、同上、該当頁を示す

和文：同上， p.○（又は pp.○-○）

欧文：Ibid., p.○.（又は pp.○-○）

2-9-3-9. 間隔を置いて重複出現する場合（同一著者の文献が一つの場合）

通し番号は続いていないが既述の同じ文献を引用する場合は、著者名（姓のみ）、前前、頁を示す

和文：著者姓，前掲， p.○（又は pp.○-○）

例) ローウェンフェルド，前掲， pp.28-29

欧文：Athor, *op.cit.*, p.○（又は pp.○-○）

著者姓, *op.cit.*, p.○（又は pp.○-○）

例) Gardner, *op.cit.*, p.○（又は pp.○-○.）

2-9-3-10. 同一著者による前掲文献が複数ある場合

同一著者による前掲文献が複数ある場合は、著者名（姓のみ）、前掲註番、「文献名」、頁を示す

和文：著者姓，前掲○，「文献名」， p.○（又は pp.○-○.）

例) 岡本，前掲2，『今日の芸術：時代を創造するものは誰か』， p.234（又は pp.234-235）

欧文：Author, *op.cit.*, Article or *Book Title (Italic)*, p.○（又は pp.○-○）

著者名, *op.cit.* ○, 論文名もしくは書名 (イタリック), p.○（又は pp.○-○）

例) Gardner, *op.cit.* 7, *Creating Minds*, p.122（又は pp.122-123）

2-9-3-11. オンライン情報の表記

著者名，記事等の表題・出版年等（文献の表記に準ずる），サイト名，URL（アクセス年月日）

例) 美術科教育学会，「美術科教育学会 会則」1982 (2012 改正)，美術科教育学会 公式ウェブサイト，<http://www.artedu.jp> (2022年6月1日閲覧)

以上